

クロンシュタット・イズヴェスチャ III

六号 一九二一年 三月八日
七号 一九二一年 三月九日

La Commune de
Cronstadt
- Cronstadt
Izvestias -
Delibaste 1969
吉原 文明・訳

イズヴェスチャ 六号

一九二一年 三月八日 火曜日

トロッキーの最初の一撃は、共産主義者の弔鐘を鳴らす。

臨時革命委員会コミュニケ

六時四五分、セストロレックとリシイの共産主義者の砲兵中隊は、クロンシュタット要塞に対し最初の火蓋を切った。要塞はその挑戦に応じ、すぐさま砲兵中隊を静ませた。続いて、クラスナイア・ゴルカ要塞の大砲が火蓋を切ったが、戦艦ペトロパブロフスクからの堂々たる応戦を受けた。砲撃は絶え間なく続いている。

二人の赤軍兵士が負傷し病院に収容されたが、物質的損害はない。

最初の発砲（クロンシュタット一九二一年 三月七日）

彼らはクロンシュタットに砲撃を開始した。よろしい！われわれは準備を完了している。恐怖はない。われわれの力を試そう。彼らは行動を起こすことを早めている。彼らは選択を疑っている。ロシア人民は、共産主義者の虚言にもかかわらず、三年間の奴隷状態をへた今日、クロンシュタット革命によって口火を切られた偉大な解放運動を認め始めている。

死刑執行人は心配している。彼らの恐ろしく残酷ないけにえとなったソヴィエト・ロシアは、彼らの拷問の部屋から逃走しつつある。そして独裁者は、彼らの血で汚れた手を引きつらせている。共産主義政府は弔鐘を鳴らした。自由なクロンシュタットが、一週間ものあいだ存続しているということは、彼らの無力を証明している。もうすこしすれば、われわれの艦船と革命的な要塞の

堂々とした応戦で、ソヴィエトの海賊艦船を沈没させるだろう。そしてソヴィエト権力は、「権力を党にではなく、ソヴィエトへ」という旗を掲げた艦船が、自由クロンシュタットとともに戦っていることを理解しないわけにはいくまい。

われわれと彼ら

彼らの手から逃がれつつある権力をどのように保持してよいかわらず、共産主義者どもは最もいやらしい挑発に走ろうとしている。彼らの不潔な新聞は、われわれ人民大衆を煽動するためあらゆる方法を用いている。また、クロンシュタットの運動が白色擁護者の陰謀であるように見せかけようとしている。

本日この略奪好きな大ばかり者の連中は、「クロンシュタットはフィンランドに売り渡された。」という風説を、すべての人民に大声で怒鳴っている。彼らの恥知らずの新聞は毒を吐いている。クロンシュタットが反革命の手中にあるということを、プロレタリアートに確信させることに失敗して、彼らは民主主義の感動をもってつけこうと努力している。

すべての人民は、なぜクロンシュタットの守備兵と労働者が戦っているかを、われわれのラジオ放送ですでに知っている。しかし共産主義者は、事件の意味するものをあえて歪め、ペトログラードのわれわれの兄弟を騙そうと願っている。

共産主義者の番兵とカデットは、彼らの銃剣の恐怖の下にペトログラードを占領している。新しい類のトレポフトロッキーは、労働者・赤軍兵士の代表に、クロンシュタットへ来ることの許可を与えなかった。それは彼らの一目瞭然である虚実を恐れたから

である。この事実は、共産主義者を一掃するであろう。つまり、労働者大衆がひとたび意識したなら、蛸のできた手で権力をとるであろうから。

これは、クロンシュタットへ本当の公平な同志を送るよう、われわれのラジオ放送を通じて要望したことに対し、ペトログラード・ソヴィエトが答えなかった理由でもある。共産主義者の指導者たちは、身の危険のため恐怖にとらわれ、真実を隠し、彼らは大騒ぎの上にさらに無制御になり、「クロンシュタットは白色擁護水兵でいっぱいだ!」とか、「クロンシュタットのプロレタリアートは、フィンランドとフランスのスパイによって売り渡された」とか、「フィンランド人がクロンシュタットの反徒の助けで、ペトログラードを占領すべく軍隊を組織している」などと……。

われわれはこれらすべての嘘に対して答えよう。

すべての権力をソヴィエトへ!

白色擁護主義者・地主・ブルジョアジーに対し戦っている殉教者たちの自由の血で赤く染めたおまえたちの手は下劣だ!

農民よ、あなたの大地を平和に耕せ!

労働者よ、あなたの機械へ!

自由クロンシュタットは世界の労働者に語る

本日は世界的な休日——労働者の祭日である。大砲の砲火の下で、労働者人民の不倶戴天の敵である共産主義者に放っている爆弾の破砕音の下で、われわれは世界のすべての労働者に親愛なる挨拶を送る。

革命的赤色クロンシュタットの挨拶が、自由の方向へ歩まんこ

とを！願わくば、われわれの敵がわれわれの下から敗走せんことを！彼らはわれわれが無敵であることを知るだろう。われわれは、「すべての抑圧からの速かな解放を望んでいる」。

自由な革命的労働者万歳！

全世界の社会革命万歳！

クロンシュタット臨時革命委員会

一九二一年三月八日

全世界に知らせよ

臨時革命委員会は次のラジオメッセージをこの日送った。

すべての：へ、すべての：へ、すべての：へ。

第一撃は放たれた。労働者の鮮血で汚された陸軍元師トロツキは、ソヴィエトの真の権力を構築するため共産主義独裁に対し立ち上った革命的なクロンシュタットに、砲撃を加えた最初の人物である。

一発も放たれることなく、一滴の血も流されることなく、クロンシュタットの労働者・水兵は、共産主義独裁を敗走させた。そのうえわれわれは、ともに生活している共産主義者の生命を庇護してあげた。大砲の威嚇の下で、共産主義者は彼らの新しい権力に従わせようとしている。ただひたすら殺戮行為を避けることを望んでいるわれわれは、クロンシュタットがソヴィエト権力のために戦っていることを報告しうよう、ペトログラードが公正な代表者を派遣するよう要求してきた。しかし共産主義者たちは、ペトログラードの労働者たちにわれわれの要求を隠し、砲火を開いた——それは労働者人民の強い要求に人民の政府を偽装したい

つもながらの返答であった。

全世界の労働者たちに、われわれソヴィエト権力の擁護者たちが、社会革命の獲得物を監視していることを知ってもらいたい。われわれが打ち勝つか、さもなくば労働者人民の権利のため戦いながらクロンシュタットの崩壊のなかで死んでいくか、どちらかである。

全世界の労働者たちが、われわれの判事となるであろう。

無実の人々の血が、権力に陶醉し、猛り狂う気違いども、共産主義者の頭上に降り注がれるであろう。

ソヴィエト人民の権力万歳！

クロンシュタット臨時革命委員会

われわれが戦っている目的

労働者たちは十月革命が彼らの解放につながるよう戦ってきた。しかし人々は、以前よりもなおいっそう著しく隷属化されてしまった。警察君主制の権力は、略奪者・共産主義者の手中に移された。それは民衆を自由にしておく代わりに、その残酷な行為はツァーの憲兵の方法をはるかに超える、チェカの意のままになる絶え間ない恐怖を被圧制者に抱かせた。チェカの銃剣と侮辱、それが非常に多くの闘争と迫害のために戦ってきたロシア・ソヴィエトの労働者たちに払われたすべての報酬であった。

労働者階級の栄光ある象徴——鎌と槌——は、共産主義政府によって鉄格子と銃剣とに置きかえられた。そしてその代償は、人民委員の官僚主義と共産主義官僚に平穏な気苦勞のない生活を保障することを要求するものであった。しかし最も憎むべき、最も罪あ

るもの、それは共産主義者によってもたらされた精神的奴隷状態である。彼らは、労働者の精神思想を權威の下に従わせ、彼らの公式によってのみ考えることを各自に強制した。労働組合を国有化することによって、彼らは労働者を機械にしばりつけ、労働をつまらない奴隷状態に変えた。

猛り狂う敵怒によって現わされた農民の抗議や悲惨な生活状態から、どうしてもストライキに訴えねばならない労働者の要求に対して、彼らは大量虐殺とツアーの將軍も羨むほどの残虐さで応えた。自由の赤色旗を最初に振り上げた労働者のロシアは、支配者・共産主義者の偉大な栄光のために、殉教者の血でもって見捨てられた。労働者革命の誕生という偉大で輝かしい希望は、血の海のなかに消え去ってしまった。

共産党が労働者の防衛者でないことが次第にはっきりとしてきて、今では明白な事実となっている。人民の利益はそれとは無関係である。ひとたび権力を手に入れた後、共産主義者の唯一の心配事は、権力を失わぬことであった。そのために彼らは、どのような手段も正当化できると考えている——名譽毀損・中傷・暴力・反徒の家族への復讐——これらがみなそうである。しかし虐待されている労働者たちの忍耐も限界に達し、抑圧と暴力に対する闘争である暴徒の反乱は、国のいたるところを反乱の炎で明るく照らしている。

ソヴィエトの犬どもはまったく油断がない、彼らは避けられない第三革命に悪意を抱き、圧殺しようとすべての策を講じている。だが、第三革命は労働者によって導かれ、もうやってきている。ボルシェヴィキの將軍どもは、共産主義者が社会主義思想を見捨

ててしまったと確信して、人民自身が立ち上ったことに気づくであらう。

プロレタリアートの怒りから逃がれることができないことを知って、すっかりおびえきった共産主義者は、反徒にテロを加えながら時をかせいでいる。牢獄・死刑・どう猛なコサック、これが彼らの軍隊である。そのため共産主義者のくびきの下で生きること自体が、いかなる幸福もないことである。反乱を起こした労働者人民は、奴隷制に対する戦いが妥協によって勝ちとられるなどと誰ひとりとして考えていない。それは最後まで戦いぬかれなければならない。

共産主義者たちは、譲歩し、和睦するふりをしている。なぜなら彼らはペトログラード地方一帯の道路封鎖を廃止し、外国から食物生産物を買付けるために、一千万ルーブル金貨を割り当てた。しかし誰もこれに騙されはしない。主人と独裁者の鉄腕はこの餌の下に隠されている。この主人と独裁者はひとたび平靜に戻るや、これらの譲歩に高い金を払わせようとするのだ。

誰ひとりとして妥協が可能だなどと思っていない。

われわれに残されたものは、勝利するか、さもなくば死ぬかである！

それは、右翼反革命分子と左翼反革命分子にとっての恐怖であり、赤色クロンシュタットの標語である。それは革命が進行しているクロンシュタットにある。

三年間の最後の暴虐に対し、三世紀に渡る君主政治のくびきの色あせたものにしてしまった共産主義独裁政治の抑圧に対し、反旗を高らかに掲げたのはクロンシュタットである。

第三革命の基礎はクロンシュタットにある。革命は労働者大衆の枷となつてゐる最後の鎖を粉碎するであらう。革命は社会主義建設の新しい大きな公道を開くであらう。この新たな革命は、東西の労働者大衆を救済するであらう。それは共産主義者の官僚主義的な「命令」に対し、新しい社会主義のありかたを指し示すであらう。われわれの前衛を超えた労働者大衆は、労働者と農民の名において現在まで行なわれてゐることは、社会主義ではないのだということを真に確信するであらう。

この方向における第一歩は、一発も発砲されず、一滴の血も流されずに進められてきた。労働者は流血の惨事を好まない、正当防衛にのみ血を流すにすぎない。共産主義者の見るに耐えない行為にもかかわらず、われわれは彼らのひなしい悪意に満ちたデマによつて、革命的な仕事を妨害されないために、社会的な生活から共産主義者を孤立させようとする、われわれの意向を十分にくんでゐる。

労働者と農民は抑さえがたい力で前進してゐる。彼らは首のまわりにかけられた縄を絞めつけ、絞殺するとおどす国家資本主義やチエカをもつ共産主義独裁を背後に残し前進してきた。ここまではなされてきた変化は、最終的にソヴィエト自由選挙の可能性を労働者に与えた。その変化は、暴力的強制のない、党員のいない職務を遂行するようになった。同様に、労働者・農民・知識労働者たちの自由な連合を国家労働組合に再編成することを可能にした。

共産党独裁の警察機構は、ついに打ち壊された。

我々は革命の起爆剤

労働者諸君！クロンシュタットは、ロシア・ソヴィエトの自由のための戦いにおいて、危機をはらんだ第一歩を踏み渡らうとしている。われわれがこの戦いを受けて立つのなら、われわれの理想のために、ありとあらゆる悲惨な事に耐えうる思想を証明しなければならぬ。

われわれはすべて兵士である。われわれの一念は、打ち勝つか、さもなければ死ぬかである。われわれは最後のパンの一片まで共有する。すでに駐屯地において、市民は空腹に耐えることができないにもかかわらず、貯蔵食物を分配している。誰ひとりとして飢える宿命など負わされてはいず、ただそのことで志気を低下させる者は、ひとりもいなかった。われわれはすべて平等であり、仕事を休まない。そして、それと引き替えに、われわれは最も力強く自由社会を実現する。

われわれの革命は、われわれがわれわれの組織機構にとどまることの名において、自由労働の革命となる。

絶えず革命の起爆剤であれ。社会主義的自由社会を存続するために働け。

共産主義者のくびきを打ち倒す、あなたがたの任務を忘れるな。ソヴィエト権力は、唯一農民の解放にある。

ペトログラードの情勢

ヘルシグフォール（フィンランド）の新聞『ユーブドラッドラ』六〇号に、次に続くコミニケが発表された。

「ペトログラードの労働者は、同盟罷業に入った。彼らは共産

主義者による統轄の破棄を要求し、赤色旗を高く掲げ、工場労働を放棄し、示威運動に突入した。水兵たちもこの示威運動に同意した。駐屯地は住民の重苦しい感傷に包まれていた。だが、期待は残されていた。

カデットと呼ばれた連帯に疑惑を持ったリトム・ド・コール（不詳）の赤色連隊は、ペトログラードに注意を払っていた。煙草工場「ラファーム」のロシア共産党書記は、懲罰や追放処分にした労働者をあえて召還させた。

プティロフ工場の工場委員のメンバーが、数人の共産主義者によって殺されたことが明らかにされた。

労・農監督局からの呼びかけ

解雇が続出し、監督局で自発的に活動していた多くの共産党員の離散などによって、目下機能が麻痺している。そのためわれわれは、登録された仕事は有効な労働であると考える。

もしこのような状態がそのまま進んでいくならば、人民の資産を蝕んでしまう恐れがある。このような事態が生じないためにソヴィエト制度の保護が必要である。つまり革命的な三頭政治（労・農・赤軍兵士）が、再選まで空席になっているポストの世話をし、すでに監督局によってなされてきた職務すべてを励ますことである。

「赤軍兵士」要塞の悲劇

赤軍兵士・水兵・労働者たちの書簡によって渦中にまきこまれた起草書は、ロシア共産党を放棄することを表明した。

われわれは、最も独自の理由のみを引合いに出す。

本日われわれは、あなたがた共産党に、新しい党員補充にあたって共産党によって不法な方法で利用された思想の歴史的資料の裁決を委ねる。それはロドジアノフに攻撃を開始しはじめ、赤衛軍のなかで動乱が生じた一九一九年七月一日頃であった。

反乱はクラスナイア・ゴルカ要塞とクロンシュタットに広がった。そこでトロツキーは一時も早くその暴動を鎮圧するための命令を下した。共産主義者たちは、恐ろしい鎮圧に従事する彼らの死刑執行人を動員した。

七月一五日、共産主義者レイム、メドベエドフ、ソトニコフ將校を配するコサック連隊が、蒸気船で運ばれて「赤軍兵士」の要塞へ到着した。レイムは群衆に誇張し、要塞の守備兵は宿营地から出て連隊に従うよう命令した。さらにレイムは、次の条項を申し立てた。

「同志諸君！あなたがたの下に希望を甦らせるためにやって来た分遣隊は、疲れきっている。そのうえあなたがたが、すべての兵役に代って勤めるということが不可能であることぐらいすぐに理解できるだろう。そしてあなたがたの下にやって来た五番目の人物のみが、あなたがたに平安を約束することができる。」

それから五五人の赤軍兵士が五列になって出ていった。たたきつぐせ！レイムは命令した。続いて到着した分遣隊を赤

軍兵士の前に位置させ、一列縦隊を形成してとどまっていた彼らに向って命令を下した。すべての準備が完了した時、レイムは彼らに死を宣告した。彼らの前の宿舍の舗道の上に整列した同志たちは、三回発砲された。退廃した共産主義者の飽くことを知らぬ

血祭りの犠牲者、五五人の兵士たちは崩れ落ちた。

死刑執行人レイムの特赦で三人の同志は生き残った。二回目の悲劇が演じられた。死刑執行人の命令で、まだ生温かい死体にタールがかけられ、大きく掘りえぐられた溝の中に死体がほうり込まれた。溝は死体でいっぱいになった。そしてセメントでふさがれた。

最後にレイムは、生き残った兵士に共産党に登録するよう申したてた。だが、彼らに何ができたであろうか？ それは共産主義者たちが、新しい党員を徴集したのと同じであった。

しばらくして機関銃部隊の司令官が到着した。人民委員は彼に党を宣伝するためにクロンシュタットへ行くことに嫌疑をかけた。そこで、新たな犠牲者が要塞のプラットホームの上に彼らの血を流した。

その日、引き続いて何のためらいもなく食料供給廃止の命令が発せられた。

われわれはその命令書の全文をここに掲す。

命令ナンバー 一〇

バルチック艦隊臨時革命法廷の命令によって除名された五〇名と、この原本に記載されている機関砲第二大隊の五・六・七中隊の者は食料供給目録を削除する。この命令は今年の六月二〇日をもって実行する。

次に続く者たちが、この命令書にある一番から五十一番の氏名である。

(調査) 「オブリュチュエフ」要塞司令官 一九一九年六月二日

ナンバー六二四

右正に原本と相違なし、

第二師団司令官 カルポフ

人民委員 ネベエロフスキー

(調査検閲)

マキイメモコ

言い訳は無用である。

赤軍兵士の同志諸君！

これが共産主義者によってもたらされた自由である！この自由とは、われわれ自身が打ち破った悪習に対峙したものであり、それは諸君が臨時革命委員会に呼びかけた粉碎すべきものである。今日まで「赤軍兵士」要塞で軍務に属していたこの虐殺の証人たちは、次に続く決議を昨日採択した。

赤軍兵士の同志諸君！われわれ「赤軍兵士」要塞第六中隊の共産党員は、労働者・農民の権力に同意する。

われわれは、臨時革命委員会とともに協力している三頭政治の代表者を前に、労働者階級の全面的解放まで、われわれの持ち場に最後の瞬間までとどまることを宣誓する。

われわれは、ロシア共産党によって支持された正道を逸した暴力・嘘・威嚇行為などには決して従わない。(一九九人の署名)

われわれ労働者・農民のすべては、暴力のない、自由な生活が達成されんことを望んでいる。なぜならわれわれは、ロシア共産党のメンバーとしてではなく、バルチザンとして要求するからである。

クロンシュタットは平穩である

昨日、三月七日、労働者の敵「共産主義者」がクロンシュタットに対し火蓋を切った。

ここでは何事もなく、労働者は武装することに忙しい。

いかに多くの労働者人民が、臨時革命委員会と完全に一致協力して生活しているかが分かる。

交戦が開始されたにもかかわらず、臨時革命委員会は、戒厳令は無用であると考えた。事実誰がそれを恐れたであろうか？確かに赤軍兵士自身でもなく、水兵でもなく、労働者・知識人でもない。その代わり戒厳令によってベトログラードでは、夜間七時以降の外出が禁止された。

それはそのとおりである。圧制者たちは、圧制している労働者・人民・水兵・赤軍兵士を恐れたからである。

「コンスタンティン」要塞守備兵の市民集会における決議

一九二一年三月七日

われわれコンスタンティン要塞守備兵の水兵・赤軍兵士の連合は、現在のでき事に関し、同志ニコラエフの報告を聞いた後で、絶対的に公平な臨時革命委員会によってなされたすべての行動とあらゆる手段を認めた。それらの行動と手段は、呪われた共産主義者のくびきから解放されるためにプロレタリアートと労働者が、彼らのすべての力をもって努力したその意向を反映している。

それは、行軍から人々を力説するまで、十分な効果があった。暗殺者トロツキーが知るところでは、クロンシュタットで叫ばれたすべての声明書が、われわれ水兵・赤軍兵士そして労働者の

ために効果的に反映していないということであった。テロリストの呼びかけと脅迫は、われわれを恐れさせはしなかった。彼らの中傷は、われわれをまったくもって威嚇できなかった。共産主義者によって陰険にも略奪され虐待されたわれわれの国の誠実な大衆は、そのようなことが起こってはならないことをよく知っている。

最後までわれわれは、労働者大衆の解放のための任務を遂行するであらう。

われわれは名誉にかけて、打ち勝つか、死ぬかを決定した。

クロンシュタットの革命的労働者・水兵・赤軍兵士万歳！

下劣な共産主義者を打ち破れ！

下劣なトロツキー、罪人トロツキー、その一団を打ち破れ！

署名 書記議会委員長

イズヴェスチャ 七号

一九二一年 三月九日 水曜日

レーニンは語った、「共産主義、それは最も進んだソヴィエトの政府である」。そして人民は、銃殺刑を好む官僚政治である共産主義によって清算される。

反撃

われわれの大砲は、マジノ附近の鉄道を破壊した。オラニエムバンでの火災は、人民広場の電気施設が原因であることが分かった。われわれの大砲は、湾の北と南側から砲撃した。敵は甚大な

損害を被った。敵側の砲撃は、窓ガラスをいくらか破損させただけで、町の建物に損害を与えることはできなかった。われわれの基地を前進させるための交戦のさなかに、クロンシュタット艦隊の元人民委員グロノフは戦死した。

彼らはわれわれの子供を殺す

彼らは純潔な人々の血を流すことに慣れている。彼らはクロンシュタットの広範な住民に砲撃を開始した。最初の爆弾が三月八日六時に放たれた。爆弾は建物の雨戸に落ちたが、被害は建物の破風におよんだだけであり、附近の窓ガラスがいくらか壊れたにすぎない。一三才の子供が負傷したが幸いにも、軽傷であった。

勝利の秘訣は何か

敵の最初の発砲は、われわれ革命的守備兵が戦を求め、続けざまに報復発砲したすべての力強さと決意を、よりいっそう浮きぼりにした。すべての革命的市民は、老いも若きも例外なく武器をとることを望んでいる。精気は高まり、労働者と守備兵は最後の最後まで戦うことを決意した。

すべての市民は、共産主義者のくびきの最後の足跡まで粉碎する、ただこれのみを考えていた。誰ひとりとして退却するなどと言語ものはいなかった。ここにはただひとつの道しかなかった、それはソヴィエト権力によって自由労働の方向へ進むことである。反徒たちの情熱と力強さは、確実な勝利を引渡されるであろう。労働者の利害に無条件に譲歩する信頼こそが、共産主義者・陸軍元師トロツキーに勝利を保証する力である。

共産主義者の部隊には、これと同じ考えをもつものはいない。われわれがこの事を脱党者や囚人に知らせたという理由をもって、トロツキーは、同胞の背に機関銃を向けるといふ共産主義者独特の方法に訴えた。反徒たちの熱望に対し、トロツキーは、笞刑と弾丸をもって応えた。

聞けトロツキー

共産党のラジオ放送のなかで、共産主義者は、人民委員の悪習に反対して真のソヴィエト権力を守ろうとしている第三革命の指導者たちに、多くの嘘を吐いた。われわれはこの事実をクロンシュタットの市民に隠しはしなかった。またわれわれは、彼らの攻撃と中傷を『イズヴェスチャ』にことごとく記載してきた。

この事は、われわれが何ひとつとして恐れるものがないからである。市民はいかにして反乱が起こり、誰によってなされているかをよく知っている。労働者と赤軍兵士は、守備隊のなかにツァーの將軍も白色擁護者もいないことを知っている。

他方、臨時革命委員会は、共産主義者によって満員の牢獄のなかに入れられている労働者・水兵・赤軍兵士の家族たち人質と政治犯の釈放を、ラジオ放送を通してペトログラードへ要求した。われわれの二度目のラジオ放送は、ここで何が實際起こっているかを、ペトログラードの市民に分かってもらうため、無党派の代表委員会をクロンシュタットへ送ることを申し立てた。

これに対して、共産主義者は何をしたのであるか？ 彼らはこのラジオ放送を労働者・赤軍兵士から陰蔽した。陸軍元師トロツキーの軍隊のいくつかの連隊が裏切った時、彼らはペトログラード

ドから新聞をもってきた。だがこの新聞には、われわれのラジオメッセージに関する記事は、ただのひと言も書かれていなかった。しかし、いくら目印をつけたトランプを使って遊び、人民への秘密、外交上の秘密が無いと叫んでも、これらの「下衆野郎」どもは、そう長いことうまくやっていくことはできないだろう！聞け、トロツキー！人民が復讐を待ち望んでいる限り、おまえは無実な人々を銃殺することもできよう。だが、おまえは真理を銃殺することはできない！真理はいつか現実となって成しとげられるであろう。その時こそおまえとおまえの犬ども、おまえたちは清算することを強いられるであろう。

労働組合の再組織

ボルシェヴィキ独裁の下での諸問題と、労働組合の方向性は、最少限に縮小された。

社会主義ロシアにおける革命的運動の四年間に、労働組合は階級機関となることはなかった。これは、まったく組合の誤りのためではなく素直に言って、これは「共産主義者」の中央集権的な方法で大衆を教育しようとした党権力が原因であった。けっきょく労働組合活動は、あちこちの組合員の数をただ数え、各組合員の特質、党との関係における立場、その他まったく無用の仕事を余儀なくされた。

行政的な共同組合的な目的の方向に沿った、共和国の教育を刺激するような目標は、何ひとつとして計画されなかった。また組合の文化教育の発展も、何ひとつとしてなされなかった。これらすべてが計画されなかったということは、驚くにあたらない。

なぜなら、もし労働組合に活動の広範な自由を与えたならば、共産主義者のあらゆる中央集権的な制度は必然的に崩れてしまい、人民委員と政治部の存在の無用さを露呈してしまうからである。これらすべての欠点が疑いもなく、労働者大衆が組合を離反し、共産主義憲兵が大衆を利用する補助的な方法として、組合を利用するに到った。

ひとたび共産党独裁がくつがえされれば、組合の役割は急速に変化せねばならぬであろう。すなわち再組織された組合と委員会、国を文化的、行政的に建設するために、大衆を教育する大きな問題を解決しなければならぬ。組合は、彼らの活動に改革者の息吹きを与えなければならぬ。組合は、人民の利益の代弁者として行動しなければならぬ。ソヴィエト社会主義共和国は、刷新された組合の助力でもって、労働者階級によって統治された時のみ強力なものになるであろう。

したがって労働者の同志諸君、仕事にとりかからう！ あらゆる国内の束縛から自由な、新しい組合を築こう。そこにこそわれわれの力が存在するのである。

С・フォキン

第三革命の最初の犠牲者

(オラニエムバンでの銃殺刑の歴史)

三月二日、クロンシュタットから追放させられたカリニンの風説が、オラニエムバンで広がった。

われわれの町の水兵たちは、駅で逮捕された。

海軍航空隊の第一師団は、革命に好意的であり、労働者人民の

合図を待っていた。

クロンシュタット革命の情報が知らされた。そのニュースは、午後六時に航空師団の水兵の間に配布された。そこで彼らは情勢考察の討議のため、クラブに集合した。これを知った共産主義者たちはびっくりし、政治局では大騒動が起こった。他の共産主義者と同様にロシア共産党の組織者ペレジオフは、討議中の航空師団クラブへ行くために直ちに会合を打ち切った。師団の人民委員は、同志コレロフ（航空師団指揮官）が臨時革命委員会議長に、同書記に同志バラバノフ、同書記次長にロマノフが選出されているのを目撃して、ぞっとさせられた。なканずく、師団はその時クロンシュタットの決議を満場一致で採択した。

水兵たちは、労働者人民の解放の本源である歓喜の叫び声に敬意を表した。共産主義者たちは、彼らが権力に反対して反乱を起こすことの権利など存在しないと、ひなしくも説得しはじめた。これに対して水兵たちは、共産主義者のくびきに支えられて生きよよりは死を選ぼうという、革命的飛躍をもって答えた。それから「クロンシュタットの労働者・水兵・赤軍兵士万歳！」の歓喜の叫び声をあげながら彼らは、水上飛行機格納庫の方へ行進していった。

そこに彼らは新たに集合した。同志バラバノフは、すべての水兵に武装することを要求したが、数人の同志が共産主義者は彼らの平和主義と軽信とに、高い犠牲を払わすだろうから、われわれはもっと遠い場所で武装すべきだと主張し、その場において流血の惨事を避けることを望み反対した。彼らはクロンシュタットと交流するための三人の代表者を選出し、三〇人の護衛が編成され

た。

その間共産主義者たちは、政治局にすべての情報を報告した。すなわち人民委員議長セルジエは、反乱を起こした水兵たちを逮捕するために軍隊に命令を下していた。水兵たちは会合の後、共産主義者が彼らの住居へ戻ったので信頼した。このことは、誰ひとりとして水兵たちを疑っている者はいないという保証を、共産主義者たちは水兵に与えた。クロンシュタットへの決議を持って隣り合った小隊とともに派遣されたわれわれの同志は、チュカによって路上で逮捕された。人民委員コレロフは、クロンシュタットへ電話することも、他の部隊へ電話することもできなかった。（電話局は、機械が故障していると彼に答えた。）時を同じくして、オラニエムバン守備隊の人民委員ヤルジエは、軽砲兵三中隊を運ぶ緊急装甲列車とカデット騎兵中隊を要請した電話を、ペトログラード防衛委員会へ電話した。すべての共産主義者は、自動拳銃と機関銃をもって全身ごとく武装した。赤軍兵士一人ひとりに二ポンドのパンと一ポンドの肉が与えられ、彼らは旅団の兵営に送られた。

あらゆる場所で共産主義者たちは、護衛兵の若い水兵を逮捕しはじめた。彼らは疑惑のない水兵たちを逮捕しては、チュカに引き渡した。自己を忘れた共産主義者の逮捕劇を前に、同志コレロフはこれらの事件を報告し、抗議した。「彼らは逮捕し続けることができる。われわれは三〇人の哨兵しかいない少数人数なので抵抗できないだけで、彼らを恐れてなどいない」。

三月三日午前五時、装甲列車『黒海』は、カデットを満載してペトログラードに到着した。その日の夜明け七時に、彼らは大砲

と機関銃を海軍航空師団の兵営の前に向けて陣取った。続いて彼らは水兵たちに飛びかかり、武装解除させた。クロンシュタットのチュエカ主義者デュルクスは、「身動きするな、白色反革命、殺してやる」と野蛮にもどなりつけながら、同志コロロフをもてあそんだ。

それから最後の者が逮捕された。水兵たちは彼らの住居で逮捕されその場で引き渡しを開始され、チュエカの護衛の下に連行された。数時間の後に、チュエカ主義者たちは尋問を開始した。尋問が終了すると、カデットの大隊は、コロロフと他の四四人の航空師団水兵を他の場所へ移した。

三月三日の夜に、彼らを銃殺するためにマアティシノまで護送することが決定した。少し後になって、いくつかのいっせい射撃が相次いで起こったのを耳にした。

航空師団の共産主義者は、チュエカが今だわなにかけることができない水兵の両親と、その家族を逮捕した。

カデットの連隊は、オレルのミジニ・モイゴルドとモスクワに到着した。三両の増発装甲列車が到着し、車庫の路線は占領された。続いて、モスクワからの重砲兵隊とチュエカが到着した。

なぜこれらの番犬どもと、強力な軍隊がやって来たのか？

それは言うまでもなく、労働者の自由と、正義を熱望しないよう、労働者・農民・水兵・赤軍兵士に予定されたものであった。死刑執行などわれわれは恐れていない。われわれは、囚人の番人でもなくチュエカの奴隷でもない。拷問室の中のわれわれの妻と子供を虐待し、これらを証拠だてる革命的水兵の名誉ある死のスローガン「打ち勝つか死ぬか」に覚悟はできている。

われわれをなぶり者に、下劣な暗殺者・共産主義者！
自由ソヴィエトの権力万歳！

白色旗の犯罪的使用

戦闘行動中に白色旗を掲げることは、相手側と交渉を着手するための一時的休戦という合図である。それは人類すべてのしきたりである。だが、共産主義者はそうではない。彼らは、平和の旗を裏切りの合図に変える。彼らは白色旗の庇護の下に、最も憎むべき行為を犯した。

昨日三月八日、数人の赤軍兵士が、オラニエムバンからクロンシュタットの方に向かって白色旗を掲げながらやってきた。二人の同志が武器を持たずに彼らを迎えに行った。彼らのうちのひとりが信頼して、相手側のグループの方へ近づいていった。その間相手側は、一定の距離を置いて立ち止まっていた。同志は彼らと数語の言葉を交した。すると共産主義者たちは、われわれの同志に襲いかかり、彼を馬から引きずり降ろし、連れ去った。他の同志はかろうじて逃げることで、クロンシュタットに戻って来た。

労働者大衆に対し、共産主義者によって採用された戦いする方法を知るために、この例は知っておくだけの価値がある。

共産主義者の嘘

共産軍司令官・共産主義者トハチエフスキーは、クロンシュタットに反対して、『赤い司令官』の協力者に次のよう報道をし、牽制攻撃を行った。

「われわれは、クロンシュタットの市民が食糧をまったく受けていないことを知った」「クロンシュタット守備隊の狙撃連隊は、反乱者に屈服することを拒否し、武装解除することを許さなかった」「クロンシュタットからの脱走兵——無党派の水兵——は、コズロフスキー將軍が呼びかけて、三月四日、水兵たちによって集會が組織されたと伝えている。そして彼は、ソヴィエトのパルチザンに反対する決定的政体と断固たる行動を強く要求した」「クロンシュタットでは志気は低下している。市民は反乱が終わるのを待ちこがれている。市民は白色擁護の指導者たちが、ソヴィエト政府と交代されることを強く要求している」。

これは共産主義者が、クロンシュタットの情勢について述べたものであるが、これは労働者人民の目でわれわれの運動を汚し、彼らの政治的存在を長引かせるためにこのような手段に走ったのである。

共産主義者の要塞脱走計画

三月六日、同志アフナシエフは、本を借りるため共産主義者パロットの家へ行った。彼は、「リシイ堡壘」からオラニエムパンの海岸へ彼を連れて逃亡することを望んだ。彼は前もって、衛兵と機関兵たちと待合せ、海に集合できる最も適した特定の場所を調査していた。

その夜は蒼ざめた月の光だったので、白衣を着服するように要求された。(意見の交換は午前二時に適所で行なわれた。)しかし同志アフナシエフは説き伏せられるままにはならなかった。反対に彼は、この計画を中止させ臨時革命委員会に止めるように指

示した。パロットに意見を聞いた。すると彼は、危険に身を晒したくないので同伴できる仲間を探し、オラニエムパンへ逃亡することを望んでいると自白した。彼は銃殺されることを恐れていたからである。

三月六日、共産主義者も同様に出席した駐屯地の市民集會が、「赤軍兵士」要塞で開催された。クロンシュタットでの現在の情勢に関し、同志ヴェルシンの報告を聞いた後、列席者の間に意見の明らかな相違が認められた。それは共産主義者によって中断されることなく続けられた煽動——大氣の中に悪臭を放つ——によるものであった。彼らは撃退することが容易でないと分かっても、なおその場をわがもの顔にして同志たちに信じ込ませようと試みた。その後、同志ヴェルシンによって標語——打ち勝つか死ぬか——が提出された。守備隊は標語「降服するなら死を選ぶ」を採択した。その時五〇人ほどの共産主義者たちが要塞から逃亡しようとした。しかし彼らは、探照灯に照らし出されて発見され、逮捕され、武装解除されてクロンシュタット臨時革命委員会に引き渡された。高遠な革命的精神と、革命的クロンシュタットとともにある偉大な連帯意識は、現在「赤軍兵士」要塞に定着している。

同志の決議、我々の隊列に加わる

クロンシュタットの真実は、共産主義者の悪習によって作り上げられたあらゆる妨害を渡り切ろうとしている。結果としてこれは、敵の軍隊のあらゆる部門がわれわれの隊列に加わり、これに応じた。彼らは赤軍兵士とクロンシュタットの労働者たちが、ソ

ヴィエトの眞の権力のために抑圧者どもに反対して戦っていることをすぐに納得した。彼らはそれが將軍どもでないことを理解し（言っておくならば、われわれの下には彼らはひとりとしていない。）そのうえ、憤慨した人民は、共產主義者の悪習を撃破した。われわれは、クロンシュタットへ来るために、共產主義軍隊を見捨てた七〇〇人によって満場一致で採択された決議文をここに転載する。

「われわれ赤軍兵士・農民・労働者・カデットは、クロンシュタットに関する情況報告を聞いた後でわれわれは、クロンシュタットの守備兵の集会決議に完全に連帯提携し、われわれすべては、臨時革命委員会を信頼することを表明する。われわれは、クロンシュタットの最初の呼びかけを労働者軍の隊列に復帰させることを、すべての官僚主義とボルシェヴィキに反対して戦うことを約束し、臨時革命委員会に奉仕することを望んでいる」。

委員長・スクプロ

書記・ソレフ

すべての権力を党ではなく、ソヴィエトへ

決議

(一) われわれ人民と友好関係にある労働者連合のロシア共產党の志願兵は、現在さしかかっている情勢を討議した後、次に続くような結論に達した。

われわれは、人民の福利を働きかけるため、また、労働者・農民大衆の利益を完全に防御し是認するために党に加入した。それ

ゆえに共和国が現在さしかかっている困難な状況のなかで、われわれのすべての努力は、飢えと寒さ、組織破壊をなくすことを目的とせねばならない。われわれは共産党政府のバルチザンとしてではなく、労働者の正当な理由をもって満場一致の決意表明をする。われわれは、プロレタリア大衆に唯一属するソヴィエト創設の問題にとり組んだ臨時革命委員会の配慮に一任することを表明する。

労働者の眞の防御者、ソヴィエト権力万歳！

集会委員長・ペトロフ

クロンシュタット・一九二一年三月八日

(二) 冶金組合第一回地方委員会的一般会合の席で、クロンシュタット要塞の臨時革命委員会代表の率直な演説を聞いて、われわれは労働者を代表して表明する。

「われわれはあなたがたを信ずる。われわれはあなたがたともにある。道しるべであるあなたがたは、明るく勝利のための光を照らし続けてくれ。われわれはあなたがたを決して見捨てはしない、勝利はやって来なければならぬ。われわれは、われらの兄弟・労働者の利益のためにあなたがたとともに死ぬ覚悟である。」

委員長・ロマノフ

同書記・（署名）

労農監督局の革命的三頭政治執政官の選挙

労農監督局の協力者たちによる一般集会は承認された。監督局には四つの部署があることは御存知の通りなのだから、同数のメ

ンバーが選出されなければならない。もってハルキン、モロゾフ、ネベルキン、ロワヴィの四名が選出された。最初の三名は監督局に、同志ロロヴィはソヴィエト人民監督として就任している。また、革命的三頭政治の議長としてハルキン、同書記としてネベルキンが選出された。

呼びかけ

共産主義者の同志諸君、思い直してくれ！無党派の彼らを前にして、諸君らの誤りを認めてくれ！

私自身もセバストポル航路の船員で、共産主義者であった。だが現在私は、いかにして官僚の指導者たちがわれわれを裏切ったかを知っている。

今が正にその時である。共産主義者の同志諸君あなたがたの目を醒ましてくれ！われわれの祖先は誤りを犯してしまった。われわれの兄弟・農民と労働者は、トロツキーの命令で彼の手下どもによって銃殺された。こんなことはもうたくさんだ！

欺瞞者たちの下劣な標語「プロレタリアート独裁」に騙されるな！

臨時革命委員会を擁護し、正しい利益のためにすべての同志とともに戦いを開始しよう。

ペテン師たちの党は下劣だ！

労働者、農民万歳！

共産主義者・コスキン

脱党

ロシア共産党を放棄した声明書が編集局に絶え間なく届いた。しかしスペースがないので、彼らの声明書をそのつど公表することは不可能である。そこで可能な限り、多くのもののなかから次に続く声明書を選び公表することにする。

「ペトログラードへ代表者を派遣するという同志の提案に答えて、トロツキーと共産主義幹部が弾丸をもって応えたので、私はロシア共産党のメンバーとして考えないようになつたことを本日をもって申し出る。共産主義者の弁士の演説は私を眠ひらせていたが、共産党官僚の行動は本日私の目を開かせてしまった。私は脱党届が広く公表されんことを要求する。同様に、私は窮乏と喜びを彼らとともに分かち合うため、彼らの親密な家族のなかに私を受け入れてくれんことを同志諸君に要求する。私は、共産主義者官僚が彼らの真の顔を見せてくれたことと、このように私に誤りを見せてくれたことに対し感謝の意を表す。かつて私は、彼らの手中にあった盲目の道具であった。

元ロシア共産黨員 アンドレ・ブタチエフ

「現在の危機的情勢は、党の上部に居すわっている破廉恥なひと握りの集団の誤ちによる結果であることを考え、武力によって入党させられ、ロシア兵士である限りに於いて、私は彼らの不幸な活動の報いを恐怖をもってつくづく考える。崩壊した国土は、労働者と農民とによってのみ再建されることができのに、権力を握った党は、最も悲惨な闇の中に彼らを放置してしまった。私は党を放棄し、労働者大衆の隊列に私の身柄を捧げる。

第五大隊第四師団指令官・I・コロレヴ

(五九頁へ続く)

報告では共産主義と《コミューン主義》とが絶えず混同され、特にコミューンの必要とする自主性、さらにその自給自足性が力説されている。これは、人間の自由はその独立の函数であるという《生物学的原理》に従っている。そのような確認は、一方では主張者たちの社会ダーウィン主義を、他方では彼らの現実性の欠如を示すものである。コミューンの経済的自給自足の有優性というこのテーゼは、われわれが到達した文明と文化との段階に対応する諸要求に対する敷かわしい誤解を立証する。最も自由なコミューンは最も孤立した自足のコミューンであると主張するとき、人は詩や文学の領域に入りこむことになる。

サラゴサ大会で採択された田園主義的ユートピアに反対してサントイリヤンが提唱するのは、絶対自由共産主義の科学的概念の基礎そのものとしての技術進歩、大産業である。結局サントイリヤンによると、かかるユートピア図式においてはコミューンが、資本主義社会において国家が果たすのと同様の役割を果たすことになるということができよう。「われわれは、もし労働の場所から出発するならば」とサントイリヤンは結論する。「これら自治コミューンに関わることは何もない。なぜなら自発的に生起するのは、産業および社会的に必要な諸機能に関する同じ目標を目標とする諸努力の局地的、地方的、全国的、国際的結合体である。こと経済に関しては、局地主義の幻想を追い放わなくてはならない。」

(七四頁より続く)

セバストポル航路の船員で共産主義者であるわれわれは、現在の状況について討論した後、次に続くような結論に達した。

「ここ三年来、われわれの党には、多くの運まかせの冒険家や利殖主義者たちが存在し、彼らは官僚政治と労働者・農民とは反対の相入れぬ性格の思想を意識的にとり入れることによって、国家を誤った方向へ発展させようとした。われわれの党は、労働者とプロレタリアート階級の敵に対する戦いの問題を常に設定してきた。本日、われわれは人民の誠実な子孫として、今後労働者とプロレタリアート階級の獲得物を守ることを公然と表明する。」

われわれは、共和国がさしかかっている困難な時期に乘じ、明白にあるいは陰蔽しながらこの情勢を利用して白色擁護者を許さない。彼らは権力をソヴィエトから強奪することを望んでいる。われわれは、共謀国の反革命的な根絶し難いものに対し、必要な抵抗を対峙させることを知っている。われわれは、すでに表明したことで、労働者とプロレタリアートのソヴィエトの創設を提唱したクロンシュタット臨時革命委員会に続くことを新たに表明する。

労働者権力の唯一の擁護者、ソヴィエト権力万歳！

われわれはこの決議文が、出版物によって広く伝播されることを要求する。(二六名のサインが続く)

次の者たちによって、ロシア共産党からの脱党書簡が、われわれの下に送られてきた。(各人の職務と部署を記載した二四名のサインが続く。)